

真菌医学研究センター Monthlyセミナー

平成28年11月29日(火) 16:00~17:00
千葉大学真菌医学研究センター 大会議室

カンジダ・グラブラータ全遺伝子組換え体を用いた 病原性研究と抗真菌薬開発

千葉大学真菌医学研究センター 病原機能分野

准教授 知花 博治

病原性カンジダ菌は、免疫抑制剤、抗癌剤、抗生物質、ステロイド等の長期投与により易感染状態になった患者に対して肝臓や腎臓などに重篤な日和見感染症を発症する。全世界での死亡者数は年間約40万人、国内では2,000~5,000人と推定されている。今後、国内の超高齢化社会において易感染患者の増加は不可避であり、カンジダを原因とする疾患は益々大きな問題になることが予測されている。また近年、アルツハイマーにカンジダ等の真菌が関与することを強く支持する調査結果や川崎病の原因菌として示唆する結果も報告されており、これまで原因不明であった疾患にカンジダが関与することが報告され始めている。

カンジダ属の中でカンジダ・グラブラータ(*Candida glabrata*)は、二大主要抗真菌薬であるアゾール系やエキノキャンディン系に対して耐性株の出現率が高く、症例数の増加と重篤化が問題となっている。さらに内蔵真菌症では他に類がない人から人への耐性株の伝播も示唆されている。一方、本菌種は、生育速度の速さや、分子生物学的取り扱いの簡便性等の理由から、カンジダ菌の実験モデル生物と我々は考えおり、解析ツールとして5,249の全遺伝子に対して組換え体を作製した。現在、これら組換え体を用いて、経口投与から肝臓や腎臓へ至る感染過程に必要な遺伝子の同定を試みている。また、新しい抗真菌薬の開発を目標として抗真菌薬分子標的適性ランキングや抗真菌薬活性化化合物のスクリーニングと化合物の分子標的の同定を進めており、その進捗状況を報告する。

主催：千葉大学 真菌医学研究センター

連絡先：千葉大学 真菌医学研究センター（真菌センター支援係）

(Tel :043-226-5903, E-mail :vab5903@office.chiba-u.jp)